

平成 27 年度使用小学校用教科用図書採択理由書

教科	種目	発行者	採 択 理 由
国 語	国 語	光 村	<input type="checkbox"/> 基礎的・基本的な内容の確実な習得のために、本文に入る前に学習のめあてと進め方や読むときのポイントが示されている。また、児童が主体的に言語活動に取り組むことができるように、その交流方法について挿絵等を使って分かりやすく示されている。 <input type="checkbox"/> 考えを形成する過程において「自分の考えをもとう」を位置付け、作品と対話しながら読むことができるよう方向付けされている。 <input type="checkbox"/> 家庭学習や図書館利用との関連において、巻末では図書を分類別に並べて紹介したり、単元末の関連図書をテーマ別で紹介したりするなど、児童の興味関心が高まり、家庭でも利用できるよう配慮された構成となっている。
		書 写	光 村
社 会	社 会	東 書	<input type="checkbox"/> 各単元の基本構成が「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」と統一されていることで、児童が課題意識を持ち、より具体的に見通しをもって学習が進められるように工夫されている。 <input type="checkbox"/> 自分の考えの基になる説明や資料等が豊富であるとともに「東日本大震災」を東海地震と関わらせるなど、自然災害を身近なことであると気付かせるよう工夫されている。 <input type="checkbox"/> ふるさとを取り上げ人物に焦点をあてることにおいて、「低い土地の暮らし」では、岐阜県の地域を取り上げるとともに、具体的な人物やその願いにも触れながら学習するように工夫されている。
		地 図	東 書

算数	算数	大日本	<p>□基礎的・基本的な知識や技能を身に付けるために、数直線、言葉の式など思考を支える道具の使い方が明確である。「振り返り」に既習の教科書の頁を提示したり、領域のバランスを考えて単元の配列がなされたりして、発達段階をふまえて系統的・発展的に学習できるよう工夫されている。</p> <p>□児童が自分の力で学習を進めていけるよう、ヒントの掲載や練習問題の量が適当である。また、飛騨地区の地域性の一つである複式学級での学習の成立にも役立つ。</p> <p>□どの子ども問題解決的な学習を進めるために、自分の求め方を選択して考えられるよう配慮した頁構成となっている。また、多様な解決の方法を示しながら、児童が数学的な見方・考え方を深く追究できるよう工夫されている。</p>
理科	理科	東書	<p>□指導内容の系統性・発展性の観点において、単元末に「学びをつなごう」というコーナーを設け、3年から6年までで学習を具体的事例で一覧にまとめ、系統性を確認できるよう配慮されている。</p> <p>□学習の進め方、学び方の定着のために、学習の流れが明確に示され、ヒントや写真・挿絵などの具体物の配置が工夫されている。「飛び出す人体模型」のように、体の各部位を並べ替える作業を通して、興味をもって学ぶための手立てが工夫されている。</p> <p>□単元末の設問「分かったかな」「できるようになったかな」「考えよう」を位置付け、関連のある頁が示されていることで、基本から応用までの学びの広がりを生み出している。</p>
生活	生活	東書	<p>□幼児教育との接続において、スタートカリキュラムを入学当初の児童が生き生きと活動する写真で表現し、安心感を与えている。また、教科書の冒頭に「保護者へのメッセージ」を位置付け、スタートカリキュラムの意義を伝える工夫がある。学年末の単元では、新1年生との交流の写真や事後の振り返り活動について掲載し、その活動の見通しを持たせる工夫がされている。</p> <p>□活動や体験からの「気づき」の記録を、発達段階に応じ、絵を中心としたカードから絵地図や壁新聞、発表会まで、言語活動が段階的に示されている。また「つたわる広がるわたしの生活」では、言語活動が充実するよう「誰に、何を、どのように、もっと詳しく」という手順で示すなど配慮されている。</p> <p>□上・下巻で「じぶんのことをふりかえろう」「1年間を振り返ろう」がそれぞれ位置付けられ、自分の成長に気づき、自己肯定感を培えることができるよう工夫されている。</p>
音楽	音楽	教芸	<p>□基礎的な能力を系統的・発展的に身に付ける学習において、下学年から高学年まで系統的に学んだ音の高さの違いの感覚を活用して思考・判断し曲想を工夫する構成・配列である。</p> <p>□問題解決的な学習において、教科書の右側に「はずんだ感じ・なめらかな感じ」という旋律の特徴を示すことで「こんな風に歌いたい」という思いや意図を明確にもたせ、それを表現につなげるためのヒントを与えている。指導要領に示されている「思いや意図をもって表現する」が具現されている。</p> <p>□いろいろな楽器の重なる響きを味わう学習の際、「重ね方を工夫しよう」と学習の方向を示すとともに「響きの変化」「盛り上がりの変化」等、参考となる重ね方が示してあり、学びの見通しをもって主体的に学ぶことができるよう配慮されている。</p>

			<p>□音楽づくりの活動を各学年に位置付け、意図的な試行錯誤を経験させながら音楽作りができる構成となっており、飛驒のふしづくりとも関連した学習展開ができる内容である。</p>
図画工作	図画工作 日文		<p>□多くの題材が見開きの2頁にわたって掲載されていることで、児童は大きく写っている作品のよさを味わったり、技法等の手がかりを得たりすることができる構成・分量に工夫されている。</p> <p>□問題解決に向けて、児童の発想・構想の能力や創造的な技能を引き出す手立てが適切に示されている。例えば、墨による表現では、多様な表現に加えて、多様な道具とそれを効果的に使うための技術について分かりやすく記されている。</p> <p>□学習の進め方が分かるよう、題材の最初の頁に、学習のめあてを図画工作科で付けたい力からの4観点から示され学び方に配慮されている。</p> <p>□飛驒地域の伝統的な題材である白黒木版画が、系統的に掲載されている。さらに、児童の身近な生活での心情を表現した題材が用いられている。</p>
家庭	家庭 東書		<p>□題材の系統性において、例えば、調理に関わる最後の題材「まかせてね 今日の食事」では、「ゆでる・いためる」両方の技能を活用した調理例が示され、2年間で基礎的な知識及び理解を習得できるよう示されている。</p> <p>□学習の進め方において、すべての学習項目が、1. みつめよう、2. 計画しよう活動しよう、3. 生活に生かそう、と3つのステップになっており、家庭科の学び方が分かるように示されている。</p> <p>□発展的な内容を「やってみよう」等で示したり、提示したりすることで、家庭生活に対する興味・関心を高められるように構成されている。さらに、作業手順が資料と言葉で分かりやすく提示されている。</p> <p>□「プロに聞く」コーナーが8例、「日本の伝統」コーナーが14例取り上げられ、授業での学びを自分の夢と結びつけて考えたり、地域のよさに目を向けたりすることができるよう配慮されている。</p>
体育	保健 東書		<p>□問題解決的な学習を進めるために、例えば「育ちゆく体とわたし」では、実物大の挿絵により、自分の成長を実感し学習の意欲化を図っている。また「よりよく育つための生活」では、6つの場面のイラストから自分のこととして考えるよう工夫されている。</p> <p>□こども110番の紹介、地域避難場所確認の啓発等、安全に対し主体的に学べるよう工夫されている。</p>